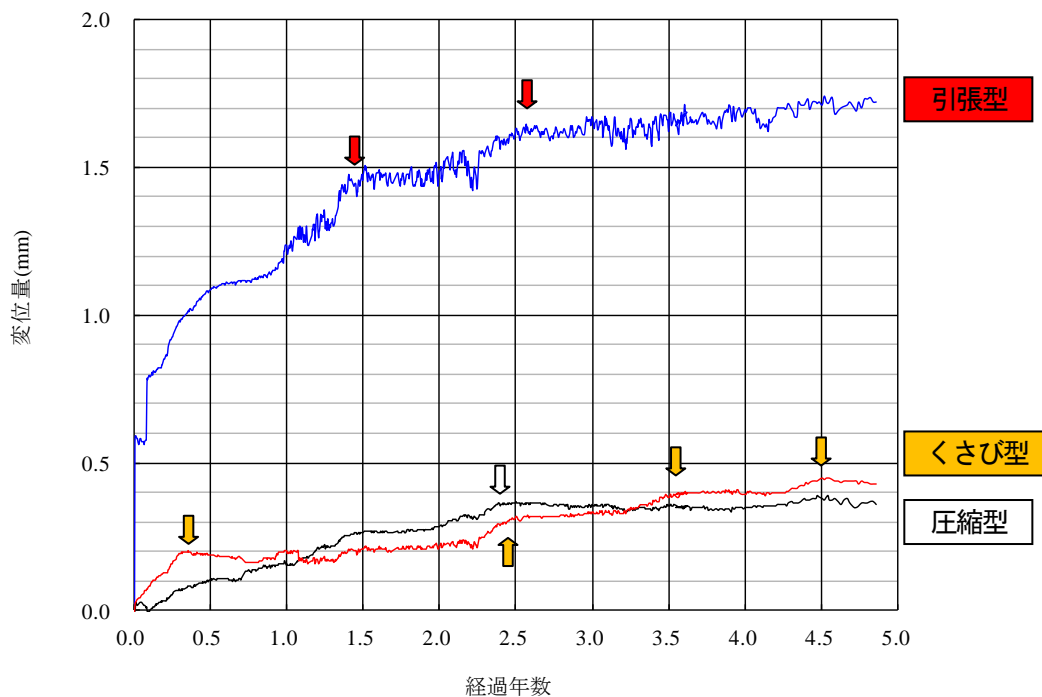


—アンカー一体長期耐久性試験— 【5年経過】

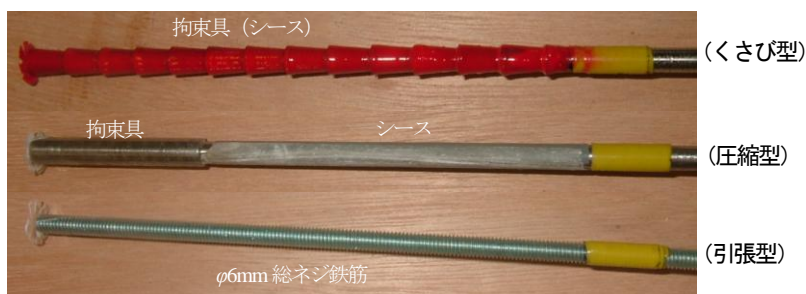
下記のようにくさび型アンカー体の安定性が明瞭となっている。

アンカー形式	有効定着長※	同左極限值※	引抜量	極限值に対する引抜率	引抜け状況	耐久性評価
引張型	150mm (最大 286mm =孔径×22)	1.5mm (有効長の1%)	1.72mm	115%	1.5年、2.5年時点でそれぞれ変位量が減少するが、依然として微少変位を継続。実験で求めた極限值※に達しており、引抜け破壊は近いものと予想される。	△
圧縮型	150mm (最大 338mm =孔径×26)	0.3mm (定着長の0.2%)	0.37mm	123%	2.4年以降安定。実験で求めた極限值に達しており、アンカー体の安全率はほとんどない状態と考えられる。	○
くさび型	150mm (拘束具 区間長)	5.25mm	0.44mm	8.4%	0.3年、2.4年、3.5年、4.5年に段階的に引抜けているが、その量は次第に減少。吊り下げ荷重（くさび力）と定着部孔壁からの反力がほぼ釣り合う状態に至ったものと判断される。限界引き抜け量は拘束具ユニット（単一のくさび）長の1/2であり、現段階の引抜量はこれの8.4%と小さい。	◎

※瀬崎茂他：限界塑性変位量を用いた既設グラウンドアンカー工の評価基準の提案，地すべり学会誌,2007.7



- ・吊り下げ荷重 32.8kg
- ・定着材強度 2MPa



耐久性試験用 tendon 仕様 (アンカー一体径 1.3cm, 定着長 15cm)